

実践の紹介

【本時の授業】令和2年6月15日（月）11:25～12:10 【指導者】小林貞幸

1. 単元名 これからの日本の財政について考えよう ～財務大臣に物申す～
2. 本単元で目指す資質・能力

本単元では、「我が国の政治の働きについてパフォーマンス課題を追究・解決する活動」を通して資質・能力を育てていく。

- 社会問題に気付き、その解決策を考えようとする事。
- 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。
- 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。

3. パフォーマンス課題

日本の歳出を見ると「借金の返済と利息」が多い。このままで日本はよいのだろうか。私たちにできることはないのだろうか。節約できることは節約して借金を返し、使うところは使って明るく楽しい生活を送ることができるようにお金の使い道を考えてみよう。そして、財務大臣にその意見文を出そう。

4. 本時に至るまで

自分事として学ぶことができようにするために、単元の初めに現実の社会的問題を提示し、疑問に感じた事や気付きを話し合うことで、身近な問題として捉えさせていく。

本単元では、まず、日本の歳出・歳入のグラフを提示した。気付いたことや思った事を自由に出し合う中で、「国の借金が多い」と問題視する声が挙がり、その点についてイメージマップを作成（写真1）することとなった。また、「国の借金が多い」という問題の背景には「少子高齢化」があるということに資料から気付くこともできたので、「少子高齢化」からもイメージマップを作成した。



写真1 イメージマップを作成する児童の様子

次に、作成したイメージマップをもとに学習計画を立てるようにした。疑問に思った事や予想した事をどのように調べるのか、調べて分かった事や考えた事をどのようにまとめていくのか等を考えさせながら、学習計画を立てていった（写真2）。そうすることで、児童が見通しを持って学習に臨む事ができるとともに、自学等で情報を集めてくるなどの主体的な学習につなげることができると考える。現に数名の児童は、情報を集めてきたので、この児童らは主体的に取り組む態度の評価を+にした。



写真2 児童と共に立てた学習計画の板書

単元の「つかむ段階」2時間を使い、児童の思いをていねいに扱っていく。最初に資料を見たときは漠然としていたことが、整理する過程において何が問題なのか明らかになり、解決の道筋が見え始める。そのことにより、今まで考えたことがなかった社会的問題を自分事の問題として捉え、問題の解決に向けて自分にできることは何かを考えながら学びを展開していくことにつながる。

問いを解決するために調べたり（写真3）考えたり（写真4）してきたところで、試行錯誤の場を設定する。試行錯誤の場とは、「AかBか」「Cをするために優先するべきことは何か」など、論題を基に議論する場とする。社会的事象の見方・考え方をういて議論できるように、発達の段階に合わせて教師がコーディネートする。



写真3 資料を駆使する児童

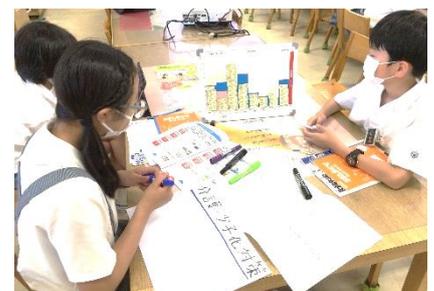


写真4 考えが似た児童と話し合う様子

本単元では、「国は税金をどう使うべきか」と論題を設定した。その論題には、「国のお金の使い道を考えた

い」児童の思いと『持続可能性』『発展』『経済』の見方で『関連付ける』考え方をういてほしい」教師の意図が働く。その見方・考え方をういるためには、各提案について「解決したい社会的問題は何か」「その提案だと『経済』はよくなるのではないかなど、児童や教師から質問や批判的な意見を出す必要がある。また、教師は、板書で思考の可視化を行い、最終的な選択・判断の場面で児童が俯瞰できるようにした。

選択をせまるような議論がないと、どの事業もよい取り組みとして終わってしまう。そうではなく、社会的事象の見方・考え方を働かせながら議論し、それぞれの事象を見つめさせることを通して、よりよい選択・判断ができる力を育てていきたい。

なお、今回の議論では、LP（ラーニング・パートナー）として佐賀財務事務所の方に入ってもらった。

5. 本時の指導（7／9）

(1) 目標

今後の日本の財政の在り方を社会問題の解決と関連付けて考えることができるようにする。【思】

(2) 展開

学習活動と児童の反応（・）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 めあてをつかみ、活動を見通す。（5分）	1 めあてを確認することで、学習の見通しをもてるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 国は税金をどう使うべきか ～増額するならばバリ何？～ </div>	
2 議論する。（30分） 〈主張〉 ・「公共事業」を増額すべきだ。少子高齢化で町が落ち込みそうなので、公園づくりなどを行うことで町が活性化し、明るく楽しい生活が送れるのではないかな。 ・「医療」を増やすべきだ。今、新型コロナウイルスで大変なことになっている。また、高齢化も進んでいるため、「医療」を増やすべきだ。 〈質問・反論〉 ・新型コロナウイルスは、今は大変なので「医療」にお金をかける必要があると思うけど、今ではなく将来を考えて「教育」にお金をかけるべきだと思いますが、どう思いますか。 ・道路を工事している様子を見たことがありますか。本当にこの工事は必要なと思うことはありませんか。公園を作ることは良いと思うので、与えられた「公共事業」費の使い方を考えれば、増やす必要はないと思います。	2-(1) 共感的に聞いたり批判的に聞いたりして、よりよい考えになるような発言ができるように促す。 2-(2) チーム（考えが似ている児童）で主張し、児童同士で質問や反論を受け付けることができるように促す。 2-(3) 白板への掲示や板書を行うことで思考の可視化を図り、俯瞰的に見るように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆これからの日本の財政がよりよくなるように考えている。（発言・ワークシート記述） B それぞれの考えを共感的・批判的に聞き、よりよい考えになるよう、反論したり代案を考えたりしている。 → 社会問題との関連がないか、実現可能かどうかなどの揺さぶりをかける。</p> </div> 2-(4) 必要に応じてLPとのやりとりを教師が行い、多角的に考えることができるように促す。
3 最終的な選択・判断をする。（10分） ・「医療」よりも「教育」を増額した方が良いと考え直した。今より将来を考えていくお金の使い道の方が納得いく人が多いと思う。	3-(1) 再考する時間を設定することで、よりよい考えにしていくよう促す。 3-(2) 考えが広がった児童や深まった児童を称賛し、次時の意見文作成の意欲を高める。

6. 学びの姿をみるシートより

本校では、児童の「主体的・対話的で深い学び」の姿が展開されているのかという点について、「学びの姿をみるシート」を用いて見取っている。授業が教師の指導と児童の学びの姿の双方向によって進むという視点に立ち、本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点をふまえて項目を設定している。

シート（次頁）は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの観点から作成し、さらに、3つの観点のそれぞれの冒頭3項目の質問について、共通項目として設定している。項目に書かれている姿を、

A よく見られた B 見られた C あまり見られなかった D 見られなかった
 の4段階で判断し、一つに○をつける。授業終了後、担当者が取りまとめ、評定やコメントを入力後、授業者及び参観者に配布しする。事後の協議においてシートを活用することで、児童の姿から授業改善を図る。ホームページ上にも公開しているので、興味がある方は、ぜひ活用していただきたい。

I 主体的な学びであったか

	項目	A	B	C	D	
1	児童は、目的・ゴールを理解して活動しているか。	6	6	1	0	3.38
2	児童が解決に向けて、自分から活動に取り組んでいるか。	6	5	2	0	3.31
3	児童は、自ら活動するために場の設定や工夫を行っているか。	4	7	2	0	3.15

コメント

- ・児童が積極的に調べ、主体的に意見を発言しており、意欲的な姿勢が感じられた。
- ・自分の意見を補強する資料を自ら調べて言っていたので感心した。
- ・最近の話題であるコロナを問題にするなど、主体的な立場で学ばれていたと感じた。
- ・児童は何を話合うのか。自分から活動に取り組んでいる子はA評価の子が少数でD評価の子多数。自ら活動するために準備をしていただろうか…。
- ・しっかり聞いているようだが、メモを取る姿がほぼ無い。共感・批判的というなら何かしらのメモも必要ではないか。→選択・判断するための材料が記憶の中にしかないのでは…。
- ・パワポを使い、補足資料も分かりやすかった。
- ・全員の姿をどう見せるか。
- ・何のための話し合いが分かりにくい。1つに絞るため？パワーアップするため？

II 対話的な学びであったか

1	児童は、意見を相互に交流しているか。	7	5	1	0	3.46
2	児童は、相手の発言を聞いて吟味しているか。	7	5	1	0	3.46
3	児童は、他者から意見を取り入れ、改善を図ろうとしているか。	6	3	3	0	3.25

コメント

- ・児童同士でディベートがしっかり出来ているように感じた。
- ・相手の意見に対して全て反論するのではなく、同調するところは同調し、反対意見が出た場合にはそれにしっかり対応していた。
- ・活発な議論をされていたと感じた。
- ・教育費に関しては挙手も多かったが前2つは難しかったようだ。同じ子しか答えていないので他の子の発言もあればよかったと思う。発言している子はしっかり考え吟味していると思うが、それ以外の子たちは、どうなのだろう。
- ・他の方のよい意見を取り入れ改善が図られていた。
- ・特定の児童によって、議論が続いている印象を受けた。45分で全グループの発表を想定してあるか分かりませんが、グループ内で話す時間もあればいいと思う。
- ・話し合いの目的も見えない。改善する必要があったのか。
- ・論の根拠となる資料提示、質問や批判的な意見が活発で、それに対しても適確に返答するなど、議論として成り立っていた。
- ・全員言いたそうではない。改善を図ろうとはしている。

III 深い学びであったか

1	児童が、これまでに身に付けた資質・能力を、本時で関連付けながら学んでいたか。	7	5	1	0	3.46
2	児童が、問題に対して、自分の考えや新たな疑問をもつことができていたか。	7	5	1	0	3.46
3	児童が、学びの深まりを実感し、振り返ることができていたか。	5	4	2	0	3.27

コメント

- ・財政に対する疑問から検討が始まっており、増額(減額)する理由を児童なりに組み立てられていた。
- ・財源の確保をどう考えるか。(どこを減らすか、増税するか、国債発行か)が難しいところではないでしょうか。
- ・疑問点や改善すべき点をしっかり指摘していた。
- ・それぞれの費目の増減の理由がもう一步踏み込んだものになればよかったか。それぞれに複雑に絡み合っている…。例えば、教育費に予算をつぎ込めば無償化が進み、子供を産みやすくなるので少子化対策にもつながるとか。
- ・反論したり代案を考えたりしている児童が議論の中では見えにくかった。メモや考えを書いている児童は3分の1程度…。？コロナの問題が終われば…。？というゆさぶりはもっと早めに全体へ教師からの投げかけがあつてよかったのではないかと感じた。「持続可能性」の見方があまり見られなかった。
- ・本単元のねらいとのズレを感じる。振り返りを発表した子に限れば…。ノートは分からない。
- ・この情勢なのでやはり医療にかたむいている印象である。Aさんのように、立場を増える子が増えれば一定の視点で練り合うことができると思う。
- ・選択・判断の充実に向かう45分間、単元の展開を考えたい。
- ・「経済」「持続可能性」「発展」の扱いが分からない。
- ・3つの意見、「少子化」「医療」「教育」→3つの何を考える？何を比較する？何にお金を使うということ？

IV その他

コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・調べる時間が多かったためか、子供たちの考えも深く発展したものになっており、聞いている方も興味深かった。 ・子供たちは自分自身でよく勉強し活発な議論をしていた。もう少し時間が合ったらよかったと思う。 ・45分の時間であったが、子供たちの活発な議論により、もう少し時間があった方がいいように感じた。 ・具体的な方法まで考えられたらいいと思う。例えば、教育費であれば大学の無償化など。 ・単元のねらいについて疑問が多く残った。また、自分事になっていない子が多かった気がする。 ・歳出を可視化するいいツールだと思う。お金の動かし方自体が子供たちの価値判断として見とれる。子供たちもよく調べ、情勢を理解できていたように感じた。ただ、判断することが広すぎて、議論として、かみ合うところとかみ合わないところもでてくるなと感じた。判断することは、全体でいくつかしぼることも必要なのではないか。～につながると思って〇〇という発言◎。資料の不備・分からないところは再度調べることができるので自分事は図れると感じる。 ・「分配」ではなく、どんなことが必要か考えて「予算」を組むべきではないか。何にどれくらいお金がかかっているか分かっていないので。もちろん、そうすると、知識として不足してしまうが…。 ・資料の見方を知っているのか？（％、1人当たりなど） ・板書で、「今→未来」の時間軸でかけていたか。白板1枚をプロジェクター含めてしっかりといかすことは勉強になった。 ・板書「今→未来」時間軸は関係しているのか。本時で取り上げた3つは意図的？そうではないように見えたけど。考えを深めるためには、もっと多くの意見に触れさせたいが全体の場の交流のみだと少し難しいか。 ・3つの中から最終的な判断をさせるなら、3つを選ぶ教師の意図がいるはず。 ・目標は社会問題の解決と関連付けてとあるが、どこまで求めるのか。←子供たちの振り返りがこうだったらいいなと思う。もっと現実の問題を知りたい。大人の考えを聞きたいとか。 ・お金を増やすとどこかを減らす必要があるか。増減とセット？今回は補正予算で補うということか。 	3.36

7. 本時の振り返り

本時は、単元終末のパフォーマンスとして個人で意見文を書くための材料集めとなる。同じ考えのチームに属し、チームとして本時の議論に臨んでいるが、必ずしも同じ考えで意見文を書く必要はない。この議論は、互いの考えを広げたり深めたりする目的があり、批判的に意見を言うことに価値がある。この議論を通して、児童は最終的に自分の考えを選択・判断していく。

提案が分かりやすいものになるよう、「①増額する費目とその理由」「②予算計画」「③根拠となる資料」の3つを視覚的に示すこととした。そのことを5時目に伝え、児童らはチームで準備を始めた(前々頁写真4)。教師は、①②を把握していたが、③については未知であった。

1つ目のチームが解決したいことは「国の借金を返す」という社会問題である。その解決のために「少子化対策」をする必要があると考えていた。『少子化対策』を成功させることで子供が増え、借金を返す人材を増やすことができるのではないか。「子育てへのサービス等を手厚くすることで、子供を産む親が増えるのではないか。」また、『定年延長』をすることで、『年金』が減額でき、その分を『少子化対策』にまわせるのではないかと発言していった。このように、様々な事象を関連付けた発言(写真5)は評価の対象となる。



写真5 チームで提案している様子

フロア側からは、「お金で子供が増やせるのか」「医療を増額する必要があるのではないか」「新型コロナみたいなものが流行ったらそれどころではないのではないかなど、批判的に意見を言う(写真6①②③)ことができた児童が数名いた。1つのチームに対して、3～5ほど批判的な意見が出たこと

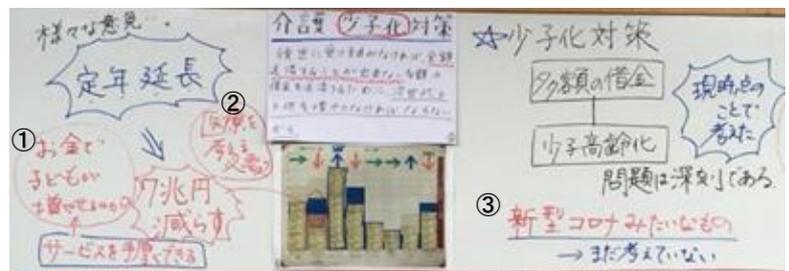


写真6 「少子化対策」についての板書

ことは相互行為として評価できる。しかし、発言した児童に偏りがあったことは確かである。この偏りをなくし、児童から満遍なく意見が出るようにすることが課題である。提案の立場で考えると、挙手をした児童はほぼ全員であったことは評価したい。

発達の段階で教師のコーディネートの仕方は変わる。6年生では、進行も児童主体とするため、教師は必要ときだけ介入する。本時では、必要に応じた場合のみ介入した。LP とつなぐときと社会的事象の見方・考え方を

働かせてほしいときであった。

LPには、「違う角度から意見を出してほしい」とお願いをしていた。今回は、「合計特殊出生率」など、普段耳にしない言葉をつかってもらった(写真7)。しかし、知っている児童が数名いた。感心すると共に、「この単元で調査したときに調べたことかもしれない」と考えると、児童の学び方には驚くばかりである。



写真7 LPの活用

LPと授業後に話をしたところ、児童の議論の様子や話している内容には驚かれていた。LPは文字通り、ラーニング・パートナーである。児童とのやりとりで何かしら学んでほしいという思いがあり、小中共通の取り組みとしている。LPには、予め児童の考え(画用紙にかいていた内容)を伝えていた。児童の学びに応じようと手元に持っていたノートにはびっしりとメモ書きがあったことから、今回の単元で児童と共に学んでいただいたことが分かる。

「持続可能性」「発展」「経済」の見方を使って児童へ揺さぶりをかけようと教師は準備をしていたが、児童の批判的な意見がほぼ途切れることなく続いたので、あまり介入をしなかった。これはよい意味だと考えている。「事業・対策」「背景」などの社会的事象の他の見方を児童が働かせていたからである。

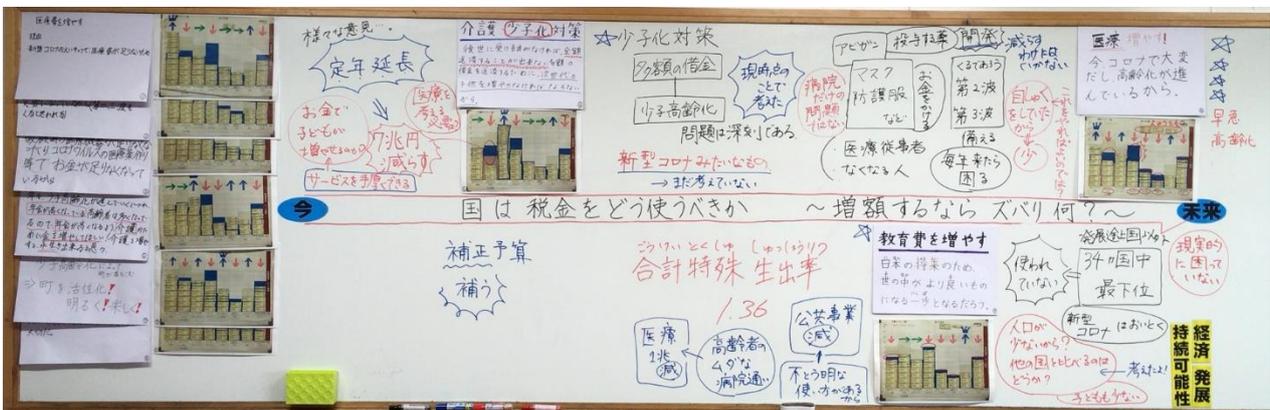


写真8 本時の板書

板書(写真8)は、時間軸を中央に表し、今から未来に向かってどのようなことを考えていくのかを俯瞰できるようにした。ペンを3色使い、児童の提案は黒で、反論は赤で、付け加え等は青で表した。また、枠囲みをすることで、強調したいところとそうでないところを分けた。星印は、本授業の終末に、「3つのチームの提案を聞いてどの提案に賛成するか」と問いかけ、6名に発言を促したところ、「少子化対策」に1、「教育費」に1、「医療」に4の賛成意見が集まったことを表している。

指導案の展開とは異なる部分が出てきたことはよい意味でも悪い意味でも教師の見通しの甘さがあった。児童の実態を具に把握し、実りのある学びとなるよう、児童と共に学んでいきたいと思う。

8. 作成した意見文

今の日本には多額の借金が有り、次世代に受け継いでいかなければ、全額返済できません!そのため、少子化対策に力を入れるべきです!!

地方交付金は、無駄な使いかがある。年金は、定年延長すれば、その分渡す必要がない方が増える。なので、地方交付金、年金は減らせます。

子育て世代に給付金を交付したり、子供を預かるなどのサービスを厚くしたりすることで、安心して子育て出来るようになります。以上のことを至理由に、少子化対策に力を入れるべきなのです!!

私は、医療の歳出を増やしたほうが良いと思います。その理由は、新型コロナウイルスの対策や高齢化が進んでいるからです。コロナウイルスは、マスクや消毒液の配給や、検査キット、人工呼吸機などの治療に必要なものを製造するためです。そして、高齢化が進んでいるというのは、日本のこれからにもつながり、働く人が減ってしまうからです。

このように、この国のこれからのためにも、医療への歳出を増やしたほうが良いと思います。

私は、教育費を増やす事が良いと思いました。その理由は、今の日本はコロナウイルスや借金などの問題があり、とても大変です。けれど、この日本を将来背負うことになるのは、今の子どもたちです。なので、そんな子どもたちの教育をも、より良いものにするべきだと思ったからです。でも、たくさん意見が出て、意見がふえました。それは、介護・少子化のことです。今の日本の問題の一つでもあります。次世代の子供を増やし、多額の借金問題の解決にもつながると思います。

このことから私は、教育費と介護・少子化対策をふやすことに賛成です。